

研究・活動助成事業 選考結果総評

公益財団法人水・地域イノベーション財団では、5回目の研究・活動助成事業の募集をいたしました。研究・活動助成への応募状況は以下の通りでした。研究助成は、専門コース4件、活動助成は、本格コース6件、一般コース2件で、専門、本格コースへの応募数は昨年と比べてほぼ同様、一般コースへの応募数は大きく減少しました。

以下採択した応募について概観していきます。

研究・専門コースでは、宮古島の貴重な飲料水源である地下水への化学農薬成分流出を防止する方法の研究、竹炭の重金属、PFAS等の吸着能を高めるための製作条件を見出す研究を採択しました。前者は、これまでの研究から、宮古島の基幹産業であるサトウキビ栽培で用いられる化学農薬が、地下水を汚染するリスクがあることが認められたことから、そのリスク低減を目的とした研究です。後者は、地域で放置された竹林を資源として、地域固有の水質問題の解決を意図した研究です。いずれも「水と地域」に深く関わり、直面する社会課題に応える研究であるということでも助成いたしました。とくに前者は、研究機関に限られる宮古島で唯一の研究機関ともいえる高校へ助成させていただくことは意義のあることと考えています。

活動・本格コースでは、4つの応募を採択しました。うち3件はアジア・アフリカの途上国における活動です。1つ目はベトナムにおける下水道の理解醸成を目的とした教育活動です。技術移転と併せて、水インフラに関する教育プログラムを提供することは、受益者の意識変容に欠かせないことであり、教科書作りの先に来る「教育活動」にも引き続き取り組まれるよう期待します。2つ目・3つ目はウガンダとカンボジアにおける給水や衛生設備導入に関わるプロジェクトです。水と衛生の重要性は論を待たないところであり、明確な目的、実施体制も整っているところから採択しました。いずれも自立的管理の持続性やここで育成された人材の継続的関与等、将来を見据えて取り組んでほしいと思います。また、助成金の有効活用についても留意していただきたいと思います。4つ目は、山間地域において、実績のある自然の浄化能を活かした処理システムの導入です。処理装置の導入だけでなく、装置づくりを含めた学習機会の提供に意味があることから採択しました。

活動・一般コースは水をテーマにしたマジック、市民が参加する身近な水辺の自然再生に取り組む活動を助成しました。マジックを通して、水の大切さを訴えるというのは、インパクトがあり教育の場でも活用が期待されます。

以上、あわせて8件の応募を採択いたしました。採択件数は、一般コースへの応募が少なかったため、昨年の12件を下回りました。なかでも、ジュニア世代の研究・活動を主とする応募がありませんでした。これまでの応募からうかがえるように、身近で、ジュニア世代が取り組むにふさわしい研究・活動のテーマは少なくありません。当財団としても、地道な調査や活動を支援していきたいという一般コースの主旨を浸透していくように努めてまいりたいと考えています。

当財団の研究・活動助成事業は、“水×地域”に視点を置いた研究・活動を重点的に採択していきたいと考えていますので、今回も、応募いただいた方々は、その意図を十分汲み取っていただいているものと思います。

当財団は、このたび、公益法人認定を受け「公益財団法人」に移行しました。これまでの「助成事業」をはじめ当財団の活動について一定の評価をいただいたものと理解しております。今後は、公益財団法人として、社会の期待にお応えしていかなければならないと考えております。次年度も引き続き積極的なご応募をお待ちしております。

2025年6月2日

公益財団法人 水・地域イノベーション財団